令和８年度 第３回 碧南市地域福祉計画策定委員会　会議録

１　日時

令和８年１０月２８日（水）午後２時から午後３時２５分

２　場所

へきなん福祉センターあいくる　会議室１・２

３　出席者

(1) 委員　１１名

榊原　和弘、石川　徹、石川　茂敏、山中　謙治、清澤　和音、鈴木　たか子、
三浦　志朗、對馬　幸司、鳥居　多佳子、山田　忍、溝口　雅喜

(2) アドバイザー

日本福祉大学社会福祉学部　野尻　紀恵　教授

(3) 事務局

ア　碧南市役所

福祉部長　鈴木　美奈子、地域協働課長　齋藤　静絵、
福祉課長　磯貝　浩、高齢介護課長　三島　瑞希、
福祉課福祉総務係長　金原　寛、福祉総務係主事　稲垣　吉朗

イ　碧南市社会福祉協議会

事務局長兼地域福祉課長　伊藤　正博、地域福祉係長　古川　裕隆、
地域福祉係主査　小島　誠司、地域福祉係主査　花井　嘉光

４　傍聴者　０人

５　議事

(1) 議題

ア　次期へきなん地域福祉ハッピープラン計画素案について

(ｱ) 第１章・第２章

(ｲ) 第３章・第４章・第９章

(ｳ) 第５章・第６章・第７章

(ｴ) 第８章・資料編

(2) その他

６　議事要旨

(1) 議題

ア　次期へきなん地域福祉ハッピープラン計画素案について

(ｱ) 第１章・第２章

＜主な意見・質疑＞

なし。

(ｲ) 第３章・第４章・第９章

＜主な意見・質疑＞

【委　員】：４７ページ、Ｎｏ．１５に記載の「コミュニティソーシャルワーク」という単語は専門的な福祉用語であるので、巻末に用語説明のようなページを作ることは可能か。

【事務局】：巻末の資料編５にて用語集を掲載予定。

【委　員】：４５ページ、「基本目標２　地域における支え合い活動の推進」について、現状と課題の記載があるが、文章を読んでも具体的な問題点などが明確に伝わりづらいと感じる。問題点がこれで、このような方策をもって、具体的にこれをやっていくということは、このページでは掲載しないのか。

【事務局】：４５ページでは文章にて記載し、４６ページに、行政と社協の取り組みという内容で３項目に分けて、方向性を記載している。本計画では、方向性以上の具体的内容は掲載を考えていない。計画の期間中の評価機会の際に、具体的に方向性に対して何をして、どのような効果があったかの検証を行っていく。計画という性質上、抽象的な表現としている。

【委　員】：４０ページ　「２ 施策の体系及び重点施策」において、施策の方向の項目に“重点”の表記があるが、第４章での各方向の箇所にも合わせて“重点の”表記を記載しても良いのではないか。

【事務局】：記載する。

【委　員】：なぜ重点としたのか、重点の中でも順位付けがあるのかなどの、重点箇所についてもう少し説明がほしい。

【事務局】：重点箇所については補足説明の追加を検討し、構成していきたい。

(ｳ) 第５章・第６章・第７章

＜主な意見・質疑＞

【委　員】：第６章のグラフデータについて。「碧南市のデータではなく、正しくは碧南警察署管内のデータ」という説明があったが、修正後は、表記を訂正するのか、グラフを碧南市のデータとするのか。

【事務局】：入手できる統計データが、碧南警察署管内のものとなるため、表記の訂正とする。

【委　員】：第６章のグラフ全てということで良いか。

【事務局】：お見込みのとおり。

【委　員】：第６章の説明中、「出口支援だけでなく、入口支援にも」とあったが、その通りだと思う。青少年の健全育成についても記載があり、福祉の手が事前に届いていれば犯罪をせずに済んだケースもあったと考えている。初犯でも再犯でもしっかりと福祉の手が届くようにするということを掲載すれば、見える化にもなると思う。

【事務局】：福祉の手が届く環境づくりという点で、第６章の再犯防止計画で記載が良いか、第７章の重層的支援体制整備事業実施計画にて記載する方が良いのか、検討していきたい。

(2) アドバイザー（日本福祉大学社会福祉学部　野尻紀恵 教授）による意見

計画の策定にあたって、私たちのふだんのくらしを守り、お互いを支えていることでいろんなことが困らなくなることや、困っているけれど究極に困る状況にならないよう、活動しやすい環境を目指しているかなど、文言を含めて確認していくと、全体を通して良い計画となると思う。

犯罪をする子どもたちの多くが、ネグレクトなどの虐待やヤングケアラーなどに起因している。もう少し支援があればすくすく育っただろうなと感じる場面が多いため、そういう子が支援されるだけでなく、活躍できる場をもっと作ってほしいと思っている。

委員の意見でも出ていたが、本計画は碧南市総合計画の１つ下に位置付けられているため、表現が抽象的になっている。会議の場では事務局から説明があったが、各計画の関係性について図のみとなっているため、地域福祉計画の位置付けについて説明を加えるてみてはどうかと感じる。

今年度は地域福祉会議に各地区２回ずつ出席をし、地区の話し合いで決まったスローガンが計画に入っているのが碧南市の計画の良さである。各地区のそれぞれの活動で地域が変わってきている。数値目標は立てにくく、評価が難しいが、人と街の変容を見れば面白さが伝わってくると思うので、あと１歩頑張ってほしい

(3) 議題（続き）

ア　次期へきなん地域福祉ハッピープラン計画素案について

(ｴ) 第８章・資料編

８１ページ　イメージ図は資料のとおりの構成を採用。資料編「４　各地区における活動記録及び効果」に掲載する図についても、８１ページと同等のイメージ図を採用することとした。

＜主な意見・質疑＞

【委　員】：第８章を含めて碧南らしい記載・表現となっていて非常に良いと感じる。現行の計画体系になる前（地域福祉計画・地域福祉活動計画が独立していた）から策定に関わっているが、行政用語や福祉用語ばかりの計画であったが、市民に近い計画になってきたと感じる。

(4) その他

【委　員】：市民アンケート結果だが、回答数が４７６件で回答率が５０％以下となっているが、どう捉えているか。

【事務局】：今アンケートより電子アンケートも導入し、前回よりは回答率は上昇している。ただ、より回答率を上げるため、次回以降は設問数などを検討していきたい。